

三日月 PLUS

2014/06/04

幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みにつつまれていた。(ルカによる福音書 2 章 40 節)

みんなで 守る

CCTを無事に終え、子どもたちの服装が夏服に統一される季節となりました。学校生活についての現状を知っていただくとともに、学校としての見解を示し、保護者のみなさんと共有していくべきことをお知らせします。

協力いただいている登下校サポートや地域の方の声から、私たちが子どもたちの行動を誇らしく感じるがあります。同時に、保護者の方の初等部の教育にご理解いただいていることや、真に子どもたちのことを考えた家庭での教育を進めておられることを心からうれしく感じます。何より、子どもたち自身が望ましい行動を理解し、自信を持って毎日を生きていることが喜びであります。低学年が幼いながらも通学上のルールやきまりを守り、保護者の方との約束を意識して精一杯に通っている姿。ビニール袋を用意し、登下校時に花の道のごみを拾っている子どもの姿。高学年が低学年に善いこと善くないことを言葉や態度で示し、低学年がそれを素直に受け入れ、「将来なりたい姿」としてお兄さん、お姉さんを見つめる姿。自分から挨拶するだけでなく、言葉や立ち居振る舞いで見守っていただいていることに対する感謝の気持ちを伝えようとする姿。

しかし、その対極に位置する状況が

あることも初等部の事実です。大きく以下の2点にわけることができます。

1つ目は「子どもたちの意識の低さ、ルールやマナーの軽視、また、個人による成長段階の差」による行動です。学校での指導や家庭での約束などを知らないわけではなく、その必要性や大切さもわかっているが、他のことに気持ちが行ってしまったり夢中になったりしている状況。少しなら、「きまりやルールを破っても構わない」や「叱られない」「見つからない」なら好きにしてもいいという考え。子どもたちそれぞれの段階に応じ、学校、家庭の双方で協力し、身体の伸長、学力の伸長だけではない、強く確かな社会人としての成長を目指し、一歩ずつ歩んでいける体制を強め、進めていきます。

2つ目は誠に残念なことです、「極めてごく一部ではありますが、保護者の方が初等部の教育にご理解、ご協力いただいていない」ことによる行動です。具体事例を挙げますと、本校では携帯電話の持参を禁じています。昨年度には携帯電話の現状に関する教育講座を開き、みなさんに改めて考えていただく機会も持ちました。にもかかわらず、登下校中の本校の児童が携帯電話を所持し、使用している姿が複数名、複数回目撃され、学校にお知らせいただいています。その様子から、子どもが保護者に黙って子ども自身の判断でおこなっているのではなく、低学年が

通話目的で保護者の方から渡されている場面が多い、と推察されます。子どもたちを周囲で見守る大人がルールを破ることを実生活の場で示し、子どもにおこなわせることの影響を軽視されています。子どもは学校でのルール、家庭での指示の板挟みになっている状況です。子どもに対し、毎日の生活の中で、「何を重んじ、何を信じ、何を頼りに」生活するべきかを大人は示さなければなりません。学校としては、すべての保護者のみなさんが初等部の教育について理解をしていただいている前提で学校教育を進めていますので、このような事態を極めて重く受け止めております。対象者、対象家庭はごく一部ではありますが、全ての子どもたち、保護者の方への負担が生じるかもしれません。具体的対応策も検討中です。ほぼすべての保護者の方々が初等部の教育を理解した上で協力いただいていることは十分にわかっておりますし、常に感謝の気持ちをもっております。学校としましては、その多くの保護者のみなさんの誠意や意志に応えるためにも、残りわずかな保護者の方により前向きに、その家庭の子どもだけでなく、初等部すべての子どもたちのよりよい成長、初等部のあり方について考えてもらえるよう、PTA組織と連携を深めて取り組んでいきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(学事主任 久木田)